



十二本ヤス



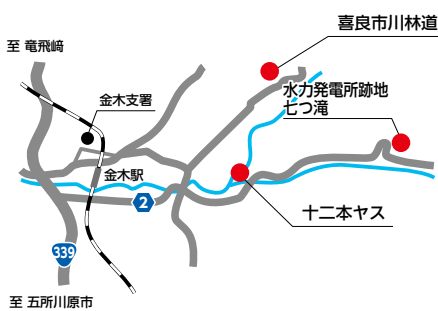
当時の水力発電所施設



七つ滝 (右側が水力発電所跡地)

◎交通アクセス

・津軽鉄道金木駅から約9km
(自家用車で約20分)



津軽森林管理署金木支署

〒037-0202 青森県五所川原市金木町芦野200-498
☎ 0173-53-3115 FAX 0173-53-3197

小説家太宰治の故郷である五所川原市金木町は、古くから青森ヒバの生産地でもあり、国道339号線から県道2号線(屏風山内真部線)を分岐し喜良市川林道を進むと、「十二本ヤス」と言われるヒバの古木(民有地)があります。(推定樹齢約500年)今回紹介する「水力発電所跡地と七つ滝」は、その「十二本ヤス」からさらに林道を進むこと車で約5分、右手に「母沢なつかしの溪流砂防公園」が見えてきます。その周辺に7段からなる「七つ滝(落差7m)」があり、近くに旧金木営林署が昭和28年に水力発電の設備を作った水力発電所跡地があります。明治42年に蟹田(現：外ヶ浜町)〜青森間で国内初の森林鉄道が運転を開始。これに伴い津軽半島の林業が盛んとなり、「山泊」と呼ばれる営林署職員の作業員宿舎が建てられました。当時はまだ、各地の作業員宿舎の照明はランプが使われ、電灯が灯るのは、この作業員宿舎だけでした。「七つ滝」の落差を利用し、水力発電のタービンを効率的に回すために水を濾過して使用するなど、当時としては画期的と言われていたそうです。

この「水力発電所跡地と七つ滝」の周辺は、ヒバや広葉樹林となっており、春の新緑や秋には紅葉が楽しめる絶景の場所となっています。

また、「母沢なつかしの溪流砂防公園」には、簡易トイレ、駐車場、東屋・溪流散策道等が整備され、築山に芝生を敷いた遊び場やミズバショウが生える湿地では、モリアオガエルの産卵地もあります。

我が署の名所

『水力発電所跡地と七つ滝』

